

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	愛の家キッズ（児発）		
○保護者評価実施期間	2025年 11月	～	2025年 12月
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 11月	～	2025年 12月
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い子どもの健康や発達の状況について共通理解ができている。	子どもの変化や状況、できたこと等は、連絡帳や直接保護者へ連絡し、保護者とのコミュニケーションとするようこころがけている。	保護者との連絡を大切にし、安心して通所してもらえるようより一層の情報共有を密にしていく。
2	子どもは通所を楽しみにしている。	一日のスケジュールに本人が楽しいこと、好きなこと、興味のあることを取り入れるようにしている。	苦手なことにも楽しく取り組んでもらえるよう今何に興味があるのかなど観察しながら進めいく。
3	児童発達支援計画に沿った支援が行われている。	成長のスピードが比較的に速いため、都度職員で話し合いながら課題を考えている。	子ども、保護者に寄り添いながら成長に合った支援を考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会、保護者会の開催により保護者同士の交流の機会又きょうだい向けのイベント等を設けていない。	週1～2回、一日2時間ほどの利用で、利用曜日もバラバラのため保護者様が一堂に会する機会を作りにくい。	長期休暇を利用した「家族参加型イベント」を計画。 家庭で役立つ情報をの発信や個別相談しやすい体制を強化する。
2	家族に対して家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていない。	週1～2回、一日2時間ほどの利用になり、イベントや他の子どもとの交流は難しい。	アンケートを実施し、ニーズの高い時間帯や内容を調査。 事業所参観やイベントの際に気軽に参加できる「茶話会」をセットで企画する。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流やその他地域での他のこどもと活動する機会がない。	週1～2回、一日2時間ほどの利用になり、イベントや他の子どもとの交流は難しい。 (長期休暇時は、放ディ利用の子どもたちと体操をしたり、一緒に課題に取り組む等はあり)	保育園、幼稚園と支援方法の共有（ケース会議）を定例化する。